



サハリン樺太史研究会
2015年度活動報告書

2016年11月21日
サハリン樺太史研究会

—2015 年度活動報告書—

目次

会長あいさつ

活動概要

例会・関連シンポジウム等

研究成果刊行物（付：参考資料 非会員による研究成果刊行物）

研究プロジェクト（付：参考資料 非会員による研究プロジェクト）

サハリン樺太史研究会会則・役員

報告書刊行について

本会は 2008 年 7 月に発足した。その後、例会開催、共同調査実施を重ね、さらに 2010 年には研究会誌を刊行、2011 年より公式 HP を開設し、研究会内外への発信にも力を入れるようになった。年度活動報告書も 2008 年度分から刊行し、2015 年度活動報告書は 8 冊目の年度活動報告書となる。

2011 年度分以降、参考資料として非会員の研究動向も日本国内限定ではあるものの掲載することとした。このことによって、日本国内のサハリン樺太史研究全体における本会の位置がより明確になろうし、また本報告書によって、完全にまでとはいかないものの、日本国内におけるサハリン樺太史研究の全体的動向を俯瞰することが可能になればと編者として願う。

なお、本報告書記載の情報の一部はインターネット上の情報を参照したものであり、若干の不正確さが残っていることがあり得ることをことわっておく。また、会員については本報告書編集時点で本会のメンバーリストに登録している者を指しており、当時は未会員であった場合もあることはご了承いただきたい。

2016 年 9 月 30 日

中山大将

（サハリン樺太史研究会世話人兼公式HP運営担当者）

—会長あいさつ—

サハリン・樺太は、前近代においては先住民を担い手とした、大陸側から千島列島にいたる海を介した交易ルートの一環であり、近代には日本とロシアの接触地域をなし、両国間で何度も国境線の引き直しと大規模な人口移動が繰り返された特異な歴史を有する島です。

この島の呼称も、幕末までは「北蝦夷地」とよばれ、明治初年から「樺太」とよばれるようになり、全島ロシア領有に変わると「薩哈噠」の3文字が当てられました。日露戦争後の北緯 50 度以南日本領有により、ふたたび「樺太」となり、第二次世界大戦後はサハリンと呼ぶことが一般的となりました。

近年、この島に改めて歴史研究の光を当て、この島の住民が幾世代にも亘って関わった歴史的経験を捉え直そうとする機運が日本、ロシア双方で高まりつつあります。また、日本とロシアとの研究交流は、今世紀に入り、活発に行われるようになりました。たとえば、北海道大学スラブ研究センターとサハリン大学を拠点として、「ロシアの中のアジア／アジアの中のロシア」第 5 回研究会「サハリン・樺太の歴史」(2004 年 7 月 29 日～30 日)、同第 11 回研究会「サハリン・樺太史セミナー(Ⅰ)」(2005 年 9 月 21 日)、同第 13 回研究会「サハリン・樺太史セミナー(Ⅱ)」(2005 年 12 月 3 日)、「日本とロシアの研究者の目から見るサハリン・樺太の歴史」(2005 年 11 月 1 日～2 日、2006 年 2 月 16 日～17 日)、「国際シンポジウム：サハリンの植民の歴史的経験」(2008 年 5 月 6 日～7 日)と幾度も研究会が開催されてきました。そして 2008 年の「国際シンポジウム：サハリンの植民の歴史的経験」開催後に、シンポジウム参加者を中心に 2008 年 7 月、サハリン・樺太史研究会が発足しました(初代会長：原暉之北海道大学名誉教授)。

サハリン・樺太史研究会は、これまでの樺太史・サハリン史研究が日本、ロシアにおいて、それぞれ別個に行われてきたことを踏まえ、双方の研究成果を学ぶとともに双方の研究成果の交流、資料保存情報の交流などの研究交流を進め、「一國史」にとらわれないサハリン・樺太史を描くことを目標としています。

本会は札幌を拠点として研究会、シンポジウムを定期的に(年間 5 回程度)開催しております。これら研究会、シンポジウムは参加自由で、どなたでも参加できます。サハリン・樺太史の研究に関心をお持ちの方は、本会事務局にお知らせいただけましたら、案内メールを差し上げます。

2013 年 12 月 17 日

サハリン樺太史研究会会長 白木沢旭児(北海道大学大学院文学研究科教授)

—活動概要—

戦後 70 年とサハリン・樺太

今年度は戦後 70 年にあたり、サハリン・樺太についても注目が高まり、学術誌や研究書の枠を越えて、本会会員も新聞などのメディアに専門家として登場した。『別冊正論』25 号では特集「「樺太—カラフト」を知る」が生まれ、本会からも竹野学会員、三木理史会員、松井憲明会員が執筆陣に連なった。なお、該当号では本会は「日本の樺太領有を「日露戦争によって獲得・領有した植民地」としてとらえる研究者が多く、ロシア側の論考や主張も尊重している」(67 頁)と紹介されている。

メディアでのサハリン残留日本人への注目度も高まり、年度末には玄武岩、パイチャゼ・スヴェトラナ両会員が『サハリン残留』(高文研)を刊行するなど社会的認知度の向上に貢献した。

翻訳書『日本領樺太・千島からソ連領サハリン州へ：一九四五年—一九四七年』刊行

ロシア連邦サハリン州文化局のサヴェーリエヴァ(Савельева, Елена Ивановна)氏が 2012 年に刊行したサハリンとクリルの戦後史に関する研究書(*От войны и миру: гражданское управление на Южном Сахалине и Курильских островах 1945-1947 гг.*, Сахалин: Министерство культуры Сахалинской области, 2012)が小山内道子会員の翻訳により日本でも成文社から刊行された。ロシア側の資料を用い、戦後のソ連占領・領有下南サハリンの状況をまとめた本書が翻訳され日本でも共有されることは研究のみならず歴史認識対話という意味でも非常に大きな意義を持つことが期待される。

ソ連占領地域抑留史研究との接続

第 35 回例会は「国際シンポジウム ソ連占領地域の抑留史」と題し、『シベリア抑留者たちの戦後』でも著名な富田武・成蹊大学名誉教授らを招いて、戦時期樺太史研究および戦後サハリン史研究とソ連占領地域抑留史研究との接続の可能性を模索する議論が行なわれた。

天野尚樹会員、山形大学へ転任

本会発足時から、事務局長や副会長を歴任し、本会の発展に多大なる寄与をしてきた天野尚樹会員が本年度をもって長らく研究生生活を送った北海道大学を去り山形大学へと転任することとなった。これを受け、第 37 回例会では天野会員の北大時代の研究の総括と今後の展望に関する研究報告が実施され、そこで提示された概念や知見をめぐって活発な議論が行われた。

ソ連占領初期南サハリン史料勉強会

兎内勇津流氏が主催するソ連占領初期のソ連公文書の勉強会は、昨年度から引き続き活動を続けている。

—例会・関連シンポジウム等—

■ 第 34 回例会

日時:2015 年 6 月 21 日

場所:札幌大学 6 号館 1 階 6102 号教室

第 1 部

原画展見学…………… 2 号館地下 埋蔵文化財展示室

自伝『オホーツクの灯り 樺太、先祖からの村に生まれて』を出版して

話し手……………安部洋子(樺太富内村落帆出身)

聞き手……………田村将人(札幌大学)

第 2 部

小樽に遺された樺太の記憶・記録:小樽市総合博物館所蔵資料から……………菅原慶郎(小樽市総合博物館)

総会

共催:札幌大学埋蔵文化財展示室

■ 第 35 回例会 国際シンポジウム「ソ連占領地域の抑留史」

日時:2015 年 11 月 1 日

場所:北海道大学人文社会科学総合研究教育棟 W201

ソ連抑留:大陸と南樺太の比較……………富田武(成蹊大学名誉教授)
コメンテーター……………中山大將(京都大学)
司会……………天野尚樹(北海道大学)

サハリン・オハ地域の石油開発と捕虜収容所……………松井憲明(元釧路公立大学教授)
コメンテーター……………天野尚樹(北海道大学)
司会……………白木沢旭児(北海道大学)

ソ連抑留者の生活を物語る 2 種類の史料:抑留下の絵画と帰還後の絵画の対比
……………エリザ = バイル・グチノヴァ(ロシア科学アカデミー民族学人類学研究所)
コメンテーター……………スヴェトラーナ・パイチャゼ(北海道大学)
司会……………原暉之(北海道大学名誉教授)

総合討論

司会……………天野尚樹(北海道大学)

主催:サハリン・樺太史研究会

共催:科学研究費補助金(基盤 B)「サハリン(樺太)島における境界変動の現代史」(研究代表:原暉之)

第 36 回例会 合同研究会「塩出浩之『越境者の政治史』をめぐって」

日時:2015 年 12 月 12 日

場所:北海道大学人文社会科学総合研究教育棟 W201

報告者.....塩出浩之(琉球大学)

報告者.....浅野豊美(早稲田大学)

報告者.....柴田陽一(京都大学)

報告者.....天野尚樹(北海道大学)

総合討論

主催:サハリン・樺太史研究会

科学研究費基盤研究(A)「比較植民地史:近代帝国の周縁地域・植民地統治と相互認識の比較研究」

第 37 回例会

日時:2016 年 3 月 13 日

場所:北海道大学 スラブ・ユーラシア研究センター大会議室

榎本武揚と樺太千島交換条約.....醍醐龍馬(日本学術振興会特別研究員)

コメント.....原暉之(北海道大学名誉教授)

樺太における国内植民地の形成.....天野尚樹(北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター)

コメント.....竹野学(北海商科大学)

—研究成果刊行物—

(五十音順)

■天野尚樹 ロシア極東近現代史・北東アジア国際関係史

【論文集】

天野尚樹「解題 | 千島・樺太の国境・植民・戦争」エレナ・サヴェーリエヴァ著、小山内道子訳『日本領樺太・千島からソ連領サハリン州へ：一九四五年—一九四七年』成文社、2015 年 11 月 25 日。

■井澗裕 建築史

【定期刊行物】

井澗裕「書評 エレナ・サヴェーリエヴァ著『日本領樺太・千島からソ連領サハリン州へ』」『図書新聞』3248 号、2016 年 3 月 26 日。

井澗裕「日持上人の樺太布教説をめぐって：帝国日本における北進論の特質と影響(1)」『境界研究』6 号、2016 年 3 月 30 日。

■小山内道子 来日ロシア人史

【著書】

エレナ・サヴェーリエヴァ著、小山内道子訳『日本領樺太・千島からソ連領サハリン州へ：一九四五年—一九四七年』成文社、2015 年 11 月 25 日。

【論文集】

小山内道子「訳者あとがき」エレナ・サヴェーリエヴァ著、小山内道子訳『日本領樺太・千島からソ連領サハリン州へ：一九四五年—一九四七年』成文社、2015 年 11 月 25 日。

■神長英輔 漁業史

【定期刊行物】

神長英輔「コンブがつなぐ世界：近現代東北アジアのコンブ業小史」『新潟国際情報大学 国際学部 紀要』創刊準備号、2015 年 7 月。

■塩出浩之 日本政治史

【著書】

塩出浩之『越境者の政治史：アジア太平洋における日本人の移民と植民』名古屋大学出版会、2015 年 10 月 10 日。

*【著書】…著書、編書、翻訳書など。【論文集】…定期刊行物以外の文献に掲載された論文など。【定期刊行物】…学術誌、紀要、会誌などに掲載された論文など。

■ 鈴木仁 文化史

【論文集】

鈴木仁「樺太庁博物館と郷土研究」石井正己編『国際化時代を視野に入れた文化と教育に関する総合的研究』東京学芸大学、2016年2月。

【定期刊行物】

鈴木仁「樺太庁長官物語その(7)第八代長官豊田勝蔵」『樺連情報』783号、2015年7月1日。

鈴木仁、出村文理「南樺太における鳥居龍蔵の先住民調査と復命書 附・「東海岸アイヌ族其他種族ニ関スル人類学的調査復命書」」『鳥居龍蔵研究』3号、2015年11月。

鈴木仁「樺太庁長官物語その(8)第一代長官楠瀬幸彦」『樺連情報』788号、2015年12月1日。

鈴木仁「樺太における郷土教育」『北海道大学大学院文学研究科研究論集』15号、2016年1月15日。

鈴木仁「日本領樺太におけるキリスト教史考(1)正教徒・カトリック編」『北海道地域文化研究』8号、2016年3月。

■ 醍醐龍馬 政治外交史

【定期刊行物】

醍醐龍馬「榎本武揚と樺太千島交換条約(1)大久保外交における「釣合フヘキ」条約の模索」『阪大法学』第65巻2号、2015年7月。

醍醐龍馬「榎本武揚と樺太千島交換条約(2・完)大久保外交における「釣合フヘキ」条約の模索」『阪大法学』第65巻3号、2015年9月。

■ 竹野学 日本経済史

【論文集】

竹野学「南樺太 サハリン住民と日本・ソ連の軍政」坂本悠一編『地域の中の軍隊 第7巻 帝国支配の最前線 植民地』吉川弘文館、2015年5月1日。

竹野学「移民政策めぐる官と民とのすれ違い—「植民地研究」からみる樺太」『別冊正論 25』産経新聞社、2015年11月13日。

■ 田島佳也 日本経済史

【定期刊行物】

田島佳也「歴史・民俗 近世期~明治初期、北海道・樺太・千島の海で操業した紀州漁民・商人」『知多半島の歴史と現在』19号、2015年10月。

*【著書】…著書、編書、翻訳書など。【論文集】…定期刊行物以外の文献に掲載された論文など。【定期刊行物】…学術誌、紀要、会誌などに掲載された論文など。

■田村将人…………… アイヌ史

【論文集】

田村将人「樺太アイヌのこの 150 年間 —安部洋子さんの家族の歴史」安部洋子『オホーツクの灯り』クルーズ、2015 年 4 月 20 日。

■出村文理…………… 出版史

【定期刊行物】

鈴木仁、出村文理「南樺太における鳥居龍蔵の先住民調査と復命書 附・「東海岸アイヌ族其他種族ニ関スル人類学的調査復命書」」『鳥居龍蔵研究』3 号、2015 年 11 月。

■中山大将…………… 農業社会史

【論文集】

中山大将「解説 サハリン残留日本人の歴史」NPO 法人 日本サハリン協会『樺太(サハリン)の残照：戦後70年近藤タカちゃんの覚書』NPO 法人 日本サハリン協会、2015 年 8 月 1 日。

中山大将「解題 II 旧住民から見たサハリン島の戦後四年間」エレナ・サヴェーリエヴァ著、小山内道子訳『日本領樺太・千島からソ連領サハリン州へ：一九四五年—一九四七年』成文社、2015 年 11 月 25 日。

【定期刊行物】

中山大将「書評 塩出浩之『越境者の政治史』」『図書新聞』3245 号、2016 年 3 月 5 日。

■野添憲治…………… 民衆史

【著書】

野添憲治『樺太が宝の島と呼ばれていたころ：海を渡った出稼ぎ日本人』社会評論社、2015 年 11 月。

■パイチャゼ スヴェトラナ…………… 教育史

【著書】

玄武岩、パイチャゼ・スヴェトラナ『サハリン残留：日韓口百年にわたる家族の物語』高文研、2016 年 3 月 31 日。

*【著書】…著書、編書、翻訳書など。【論文集】…定期刊行物以外の文献に掲載された論文など。【定期刊行物】…学術誌、紀要、会誌などに掲載された論文など。

■原暉之……………ロシア極東近現代史

【論文集】

原暉之「大戦と革命と干渉：在ロシア日本人ディアスポラの視点から」五百旗頭真ほか編著『日ロ関係史：パラレル・ヒストリーの挑戦』東京大学出版会、2015 年 9 月 30 日。

■玄武岩……………メディア学

【著書】

玄武岩、パイチャゼ・スヴェトラナ『サハリン残留：日韓口百年にわたる家族の物語』高文研、2016 年 3 月 31 日。

玄武岩『「反日」と「嫌韓」の同時代史：ナショナリズムの境界を越えて』勉誠出版、2016 年 3 月 30 日。

■松井憲明……………ロシア史

【論文集】

松井憲明「北樺太オハの日本人捕虜収容所—証言とソ連記録から見たその実態」『別冊正論 25』産経新聞社、2015 年 11 月 13 日。

■三木理史……………歴史地理学

【論文集】

三木理史「「棄景」の語る樺太産業と鉄道の関係誌—未完に終わった開拓・殖産の実像」『別冊正論 25』産経新聞社、2015 年 11 月 13 日。

【定期刊行物】

三木理史「書評と紹介 中山大将著『亜寒帯植民地樺太の移民社会形成：周縁的ナショナル・アイデンティティと植民地イデオロギー』」『日本歴史』804 号、2015 年 5 月。

■山田祥子……………言語学

【定期刊行物】

山田祥子「ウイльта語調査報告：北部方言の文例(2)」『北海道立北方民族博物館研究紀要』25 号、2016 年 3 月 31 日。

*【著書】…著書、編書、翻訳書など。【論文集】…定期刊行物以外の文献に掲載された論文など。【定期刊行物】…学術誌、紀要、会誌などに掲載された論文など。

参考資料……………非会員による研究成果刊行物

- 【定期刊行物】井上紘一「エンチウ(樺太アイヌ)のアイデンティティ状況に関する事例研究: B・ピウスツキの「樺太アイヌ統治規程草案」(1905)を再考する」『北方人文研究』9号、2016年3月。
- 【定期刊行物】Vassiliouk Svetlana(ヴァシリューク・スヴェトラーナ)「The History, Postwar Political Mobilization, and the Legacy of Japan's Karafuto-jin(日本の樺太人の歴史、戦後の政治活動とその遺産)」『明治大学社会科学研究所紀要』第54巻1号、2015年10月。
- 【定期刊行物】金子遊「対岸のアラベスク: マイケル・タウシグと樺太先住民」『現代思想』第44巻5号、2016年3月。
- 【定期刊行物】笹倉いる美「ウイлтаの人名」『北海道立北方民族博物館研究紀要』25号、2016年3月31日。
- 【定期刊行物】石純姫「帝国と植民地における先住民と奴隷(強制的労働者): 東アジアと北・中南米における比較」『苫小牧駒澤大学紀要』31号、2016年3月31日。
- 【定期刊行物】千葉誠治「「樺太アイヌ対雁強制移住事件」を通して考える先住民族との関係」『歴史地理教育』833号、2015年4月。
- 【定期刊行物】辻原万規彦、角哲、今村仁美「旧樺太製糖株式会社豊原工場に関連する建築物の図面と現況にみる特徴: 旧明治製糖株式会社士別工場との比較を通じて」『日本建築学会技術報告集』21号、2015年6月。
- 【定期刊行物】戸祭由美夫「五稜郭に魅せられて: 絵図にみる幕末の北辺防備(9)第1次幕領期における南樺太の防備と第2次幕領期における蝦夷地防備の概要」『地理』第60巻12号、2015年12月。
- 【定期刊行物】ドラグノーワ ラリーサ、高津隆「巻頭特別取材 近くて遠い島、「樺太」から「サハリン」を訪ねて 残された資料を集めて守り、伝えて役立てる: 日本統治時代の「カラフト」アーカイブズ(記憶と記録: 紡ぐ、結ぶ、伝える)」『Muse: 帝国データバンク史料館だより』別冊号、2016年1月15日。
- 【定期刊行物】堀内一平「大正期北樺太石油石炭業における企業と海軍の動向」『東京大学日本史学研究室紀要』20号、2016年3月。
- 【定期刊行物】楊素霞「日露戦後における植民地経営と樺太統治機構の成立: 日本政府内部の議論からみる」『社会システム研究』32号、2016年3月。
- 【定期刊行物】李月順「サハリンにおけるコリアンディアスポラに関する一考察」『東アジア研究(大阪法科経済大学アジア研究所)』64号、2016年3月。

*【著書】…著書、編書、翻訳書など。【論文集】…定期刊行物以外の文献に掲載された論文など。【定期刊行物】…学術誌、紀要、会誌などに掲載された論文など。

一研究プロジェクト一

(代表者五十音順)

井澗裕 建築史

[新規]井澗裕 (北海道大学)「帝国日本における「北進論」の特質と影響: 樺太と千島を例に」科学研究費補助金・基盤研究(C)、2014-2016 年。

中山大将 農業社会史

[単年]中山大将 (京都大学)「近現代東アジア境界地域の人の移動と農業拓殖の比較史: サハリン島と台湾島を中心に」京都大学若手研究者ステップアップ研究費、2015 年。

原暉之 ロシア極東近現代史

[継続]原暉之 (北海道大学)「サハリン(樺太)島における戦争と境界変動の現代史」科学研究費補助金・基盤研究(B)、2013-2016 年度。

醍醐龍馬 政治外交史

【定期刊行物】

[単年]醍醐龍馬 (大阪大学)「帝政ロシアの極東政策とサンクトペテルブルク条約」北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター「スラブ・ユーラシア地域(旧ソ連・東欧)を中心とした総合的研究」、2015 年。

参考資料 非会員による研究プロジェクト

[継続]坂根嘉弘 (広島修道大学)「日本帝国圏における戦時農業政策の比較史的研究: 社会関係に着目した地域分析」科学研究費補助金・基盤研究(C)、2013-2016 年。

[継続]鈴木建治 (北海道大学)「中世・近世アイヌ文化における内耳土鍋の考古学的研究」科学研究費補助金・若手研究(B)、2013-2015 年。

[継続]山下聖美 (日本大学)「林芙美子文学から見る近現代アジア諸国の研究」科学研究費補助金・基盤研究(C)、2013-2015 年。

* 掲載している研究プロジェクトは、本会関係者が代表者をつとめるもののうち、サハリン樺太史関連のもののほか、周辺地域・領域をテーマにする物も含んでいる。[新規]…今年度より開始したもの。[継続]…中間年度にあたるもの。[最終]…最終年度にあたるもの。[単年]…今年度開始した単年度のもの。

サハリン・樺太史研究会会則

2015 年 6 月 21 日改正

2011 年 5 月 28 日改正

2009 年 5 月 16 日採択

1. 本研究会はサハリン・樺太史研究会と称する。
2. 本研究会は、サハリン・樺太を対象地域とし、主として歴史分野に関する研究の促進と研究者の交流を目的とする。
3. 本研究会は、その目的を達成するために次の事業をおこなう。
 - (1) 定例研究会(例会)・シンポジウムなどの開催。
 - (2) 共同の研究・調査、およびその成果の公開。
 - (3) サハリンの大学・研究機関との交流、情報交換および共同研究の促進。
 - (4) その他本研究会の目的を達成するために適当な事業。
4. 本研究会は、サハリン・樺太の歴史に関心があり、その目的に賛同し、事業に協力する個人の会員からなる。
5. 新年度最初の例会時に総会を開催する。総会は本研究会の最高議決機関であり、総会の議決は原則として出席会員の過半数によって成立する。
6. 本研究会には次の役員をおく。

世話人(若干名)・会長(1名)・副会長(1名)・事務局長(1名)。
7. 世話人は総会で選出し、世話人の互選により会長・副会長・事務局長を選出する。
8. 会長は本研究会を代表し、会務を統括する。
9. 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。
10. 本研究会に事務局をおく。事務局長は会長・副会長のもとで本研究会の事務全般を担当する。
11. 役員任期は2年とする。ただし再任はさまたげない。
12. 本会則は2015年6月から発効する。本会則の改正は役員協議を経たのち総会の議決による。

サハリン・樺太史研究会役員

2015 年 6 月 21 日選出

会長: 白木沢旭児 (再任)

副会長: 天野尚樹 (再任)

事務局長: 鈴木仁 (新任)

世話人: 井潤裕、竹野学、田村将人 (新任)

=====

サハリン樺太史研究会 2015 年度活動報告書

発行日：2016 年 11 月 21 日

編集者：中山大將

発行者：サハリン樺太史研究会

[公式 HP] <http://sakhlinkarafutohistory.com/home.html>

お問い合わせは、上記 HP の問い合わせフォームよりお願いいたします。

=====